

平成28年度第2回平塚市地域包括支援センター運営協議会会議録

日時：平成28年11月10日（木）

10時00分～11時15分

場所：平塚市役所本館710会議室

出席者

（出席委員）

中村委員、高橋芳広委員、上野委員、今村委員、今井委員、高橋國明委員、尾上委員、平林委員、津島委員（9人出席）（森委員、池澤委員、柴野委員、三橋委員4人欠席）

（事務局）

中村福祉部長、岸高齢福祉課長、杉山介護予防担当長、岩本高齢福祉担当長、加藤主管、永原主査、長谷川主任

（オブザーバー）

地域包括支援センターサンレジデンス湘南 松田管理者

地域包括支援センターあさひみなみ 馬場管理者

地域包括支援センターみなと 山口管理者

地域包括支援センターあさひきた 島田管理者

地域包括支援センターあさひきた受託法人

アースサポート㈱ 谷 統括マネージャー

開会

1 福祉部長あいさつ

2 議題

（進行は高橋國明会長）

議事に入る前の報告事項

過半数の委員が出席しており、平塚市地域包括支援センター運営協議会規則第5条第2項により過半数の出席を満たしておりますので会議は成立いたします。また、平塚市情報公開条例第31条により公開となっており、会議の傍聴につきましては、平塚市附属機関の会議の公開に関する要綱のとおり、取り扱うことといたします。会議の傍聴者は0名。

<会長>

議題（1）「地域包括支援センターみなと、あさひきたのH28年度予算及び事業計画について」事務局から説明をお願いいたします。

<事務局>

資料1に基づき「地域包括支援センターみなと、あさひきたのH28年度予算及び事業計画について」を説明。

《質問・意見》

なし

<会長>

議題（２）「地域包括支援センターの实地指導について」事務局から説明をお願いいたします。

<事務局>

資料２に基づき「地域包括支援センターの实地指導について」を説明。

《質問・意見》

なし

<会長>

議題（３）「平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第７期〕）策定に係るアンケート調査の実施について」事務局から説明をお願いいたします。

<事務局>

資料３に基づき「平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第７期〕）策定に係るアンケート調査の実施について」を説明。

《質問・意見》

<委員>

回収率は、どのくらいを想定しているのですか。

<事務局>

回収率は、７割を想定しております。

<委員>

市の職員の方は、大変だと思うが数件家庭訪問をしてはどうですか。アンケートを行うだけではなく、実際に各家庭の介護状況、環境を目で見ていただきたい。民生委員で高齢者調査を行っている。７～８年前、「高齢福祉課に高齢者のお宅を訪問したことがあるか」と質問したことがあるが、高齢福祉課から「ありません」との回答があった。昨年の高齢者調査の時に高齢福祉課に電話をしたところ、ある女性職員が高齢者宅に訪問したいとの回答があり、一緒に訪問してもらった。やはり、目で見てどういう家庭状況なのか知っていただかないと、机上論だけでアンケートを集計するのは、無理があるのではないかと、高齢福祉課の職員が１回は、民生委員と一緒に高齢者宅に訪問に回っていただきたいと思います。机上論だけでは本当の意味で福祉の考えが出来ないと思います。

<事務局>

貴重な意見ありがとうございます。

<委員>

平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第７期〕）策定に係るアンケート調査は、地域包括ケアシステムの視点からも重要なアンケートであると思います。調査の対象ですがケアマネジャーが前回の調査から加わったと記憶しているのですが、同じように地域包括ケアの視点にたった現場の意見を反映させたいのでケアマネジャー以外に地区社協、特に福祉村などは、地域包括ケ

アに大事な役割を担っていくと思いますので、現段階で現場の意見を吸い上げる方法がなければ、調査の対象に加えていただきたい。また今回の、調査で対象に加えることが出来なければ他の方法で現場の意見を吸い上げてもらいたい。平塚市高齢者福祉計画策定というのが地域包括ケアシステムへどのように繋げていくのか、平塚市のビジョンを示すためにも役に立つ調査をしていただきたいと思います。

<委員>

先ほどの意見に同感です。このような会議が地域包括ケアシステムまで繋がっていく会議になるのかどうか。ただ、包括支援センターの内容や現状の報告も大事だが地域包括ケアシステムを作り上げなくては意味がない。私の地区で地域ケア会議を開催しているが、今のやり方では意味がない。出席者で自治会の代表者などいるが会議目的を理解しないまま、ただ出席している人が多い。ただ、地域課題を話すだけで解決方法に至らない。各地域の包括支援センターが開催しているが地域ケア会議についてどのような目的で開催されるのか平塚市から包括支援センターへの確な指導を行っているのか。協働推進課、社会福祉協議会、福祉村などにも地域ケア会議の目的を指導してほしい。

<委員>

調査は、4つのグループに分かれているのですが、特別養護老人ホーム入所希望者調査、ケアマネジャー調査は、実人数なのか、それともランダムに抽出したものなのか。

<事務局>

一般高齢者調査、要介護等認定者調査は、無作為抽出です。特別養護老人ホーム入所希望者調査、ケアマネジャー調査は、実数であり、全件調査であります。

委員から現場の声を計画に反映すべきだと意見をいただきました。今回、アンケート調査について御説明をさせていただきましたが、この調査を基礎データとして来年度計画を組立てていくこととなりますので、その時点で機会があれば現場の意見を聞き、民生委員に関しては、毎月定例会があるので、その中でご意見を伺えると思います。

<委員>

前回調査では、日常生活圏域ニーズ調査を1項目として調査していたと思いますが圏域ごとのニーズを把握するという観点から実施したと思われませんが、このたびの調査で一般高齢者調査と要介護等認定者調査に振り分けられて実施すると説明を受けましたが、各圏域の分析を行う予定はありますか。

<事務局>

一般高齢者調査で住まいの地区を問う設問があります。住まいの地区ごとにどのような傾向があるのか分析を行う予定です。ただし、送付件数が3,000件で実際に各地区の分析に必要な件数より少ないので分析の精度は落ちてしまうが参考資料として出せるよう分析を行いたい。

<委員>

各地区のニーズを可能な範囲で把握したうえで地域包括支援センターの事業に反映してもらいたい。

<委員>

前回の調査項目は6種類。今回の調査は、特別養護老人ホーム入所希望者調査、ケアマネジャー

一調査を市単独で実施し、一般高齢者調査、要介護等認定者調査は、(株)富士通総研に委託をする
が、市単独で実施するのは、委託料予算が減額されたからなのか。

<事務局>

市単独ですべての調査を実施することが出来ないため、関係課と相談し、今回、一般高齢者調
査、要介護等認定者調査を実施するために必要な予算がついたため。

<委員>

確かに、送付件数が前回と比べかなり減っている。予算の関係があると思いますが、予算が減
って分析の精度が落ちることが無ければよいのですが。

<会長>

議題（４）「平成２８年１０月開設地域包括支援センター「あさひきた」の現況について」地域包括
支援センターあさひきた 管理者から説明をお願いいたします。

<地域包括支援センターあさひきた 管理者>

資料４に基づき「平成２８年１０月開設地域包括支援センター「あさひきた」の現況について」
を説明。

《質問・意見》

<委員>

事業計画書の医療機関等とのネットワークづくりの推進について実施時期を平成２８年１２月
末までにと記載しているが、進捗状況は、どうですか。

<地域包括支援センターあさひきた 管理者>

実際に動き始めるのは、これからになります。１１月、１２月で医療機関に御挨拶に行きたい
と考えております。

<委員>

過去に色々な地区を見ていると医療機関等とのネットワークづくりは、うまくいっていないよ
うに感じる。

<地域包括支援センターあさひきた 管理者>

地域包括支援センターあさひきたを開設したばかりなので細かく検討が出来ていなのですが包
括職員の中で地域包括ケアシステムがうまく稼働できるよう検討していきたいと考えております。

<委員>

平塚市の方で医療機関等とのネットワークづくりについてサポートは行っているのですか。

<事務局>

医療との連携について、包括サポート医を手あげ式で各包括の方に連携を進めてもらうようお
願いしている。その中で各包括とサポート医と連携という事で地域ごとに顔の見える関係を築い
ていただいて、医療と介護の連携を進めております。

<委員>

サポート医は何人くらいの方がいられるのか。

<委員>

市内の開業医の先生を中心に２３名のサポート医がおります。現在、若干増えているかもしれ

ません。包括支援センターの担当地区には、少なくとも2～3名、多いところで4～5名のサポート医がおります。試験的に始めた取組なので、実際の地域の実情が異なります。地域包括のサポート医がどのような仕事をするか、どのような役割を担うかは、地域包括支援センターとサポート医が話し合っただけで決めるよう始めた取組であります。医師と地域包括支援センターのハードルが高く、医療の専門職と介護の専門職が顔を合わせて何をするのかというところからスタートしている。実際に地域包括に持ち込まれる問題の多くは、地域包括支援センターで解決されることが多く、我々サポート医の出番は少ない。つい先日、ある地域において虐待事例があり、地域ケア会議にサポート医として呼ばれましたが、これから、それぞれの地区で医師との連携を作っていかなければいけない。包括職員の個人的なネットワークがあると思うが今後は、地域に根差したネットワーク作りが必要になると思います。医療と介護の連携を進めるためにも、医師会に要望をあげてほしいと思います。

<委員>

平成28年9月までの8包括に対しては顔の見える関係づくりを構築するためサポート薬局が動いているが、平成28年10月以降開設する包括支援センターに対しては、今のところ人選を行っている状況です。

<委員>

開業医の少ない地区がある。その地区に住むお年寄りは医療機関まで遠いため困ってしまう。そのためにも、サポート医を増やした方がよいと思う。

<委員>

サポート医は、あくまでも包括支援センターを支援するためのものです。

<委員>

東海道線より南側の人は、共済病院、市民病院まで直接行ける公共機関がないため不便を感じている。また東海道線より南側の開業医の方は、市内在住の方が少ないと感じます。夜間等、緊急時に対応ができないとかかりつけ医として通うことが難しい。

<委員>

今まで車等を運転して医療機関に通っていた方が今後、運転できなくなり在宅医療になってしまうと、患者さんの費用負担も大きくなっていくので、医療機関を結ぶシャトルバスのようなものがあつたら良いと思います。

<会長>

議題（5）「平成28年10月開設地域包括支援センター「みなと」の現況について」地域包括支援センターみなと 管理者から説明をお願いいたします。

<地域包括支援センターみなと 管理者>

資料5に基づき「平成28年10月開設地域包括支援センター「みなと」の現況について」を説明。

《質問・意見》

<委員>

地域の中学校、高校と高齢者の交流はとても大事なことだと思います。これから、地域の教育

機関とどのような計画で交流を行うか教えてください。

<地域包括支援センターみなと 管理者>

具体的には、地域の教育機関に認知症に対する正しい理解をしてもらうため、認知症の啓発活動を行う予定であります。港小学校で自治会の方が放課後教室を行っているが、ここへ高齢者の方に来てほしいという要望がある。包括支援センターみなととしては、地域に住んでいる高齢者が活躍できるよう、地域に呼びかけたいと思います。

<会長>

以上をもちまして、平成28年度第2回目の運営協議会に係る事項はすべて終了しました。委員の皆さま、どうもありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

<事務局>

各委員の皆様には、お忙しい中お越しいただき、貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。これで、平成28年度第2回平塚市地域包括支援センター運営協議会を終了いたします。ありがとうございました。

以 上